

YU-INFORMATION

No.118

山口大学広報誌

3

2014

特集

新入生へ

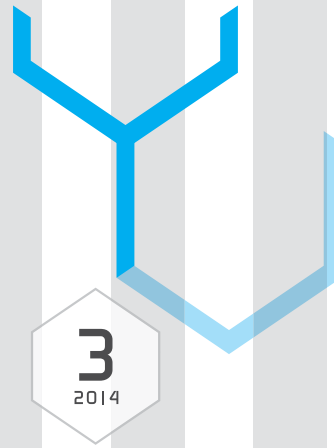
「学ぶ楽しみを知ってほしい」

{ 座談会 ① 丸本学長×学生 }

「山大生という誇りを胸に」

{ 座談会 ② 岡次期学長×学生 }





YU-INFORMATION
No.118
山口大学広報誌

contents

03

今月の特集 | #1 | 新入生へ

座談会 ① 丸本学長×学生 学ぶ楽しさを知ってほしい

山口大学 学長 丸本 卓哉

座談会 ② 岡次期学長×学生 山大生という誇りを胸に

山口大学 大学院医学系研究科 岡 正朗 教授

07

今月の特集 | #2 | 共通教育

山口大学ブランドの創造始まる

山口大学教育学部 大学教育センター長 糸長 雅弘 教授

09

今月の特集 | #3 | キャリア教育

キャリア教育から始まる人生設計

山口大学 学生支援センター 平尾 元彦 教授

11 学長退任記念講演
地域貢献

12 2013年を漢字一文字で振り返る

13 What's New? YU-PRSS

14 EVENT SCHEDULE



cover story

[今月の表紙]

植物が冬の間に蓄えてきた命のエネルギーを開放し、萌え華やぐ春になりました。表紙の学生たちも、それぞれの夢を実現するために気持ちを新たに新学期をスタートさせました。

新入生にとっては、いよいよ始まる大学での知の探究に不安があるかもしれませんが。しかし表紙の先輩たちのように思いっきりジャンプする気持ちで、自信を持って第一歩を踏み出しましょう！

文責：株式会社 無限

【 今月の特集 】

新 入 生 へ

Dear Incoming Freshmen

希望を胸に山口大学に入学してきた新入生の新たな生活が始まるこの春、
今月末で退任される丸本学長、そして岡次期学長と、山口大学広報学生スタッフ
(YU-PRSS)の学生達との座談会が実現しました。
普段お会いする機会の少ない両先生を前に緊張の面持ちの学生からの質問に、
「大学で勉強すること」や「山口大学ブランドとは何か」など、
それぞれの想いを熱く、そして丁寧に語っていただきました。
新入生のみなさんへ、「山口大学で学ぶ」ための両先生からのメッセージです。

学ぶ楽しさを知ってほしい

「座談会 ① 丸本学長×学生」



田 頃は接する機会のない学長にYU-PRSSのメンバーがインタビュー。8年間の任期を務めあげられた丸本卓哉学長に、「学長の仕事とは」「大学での学問とは」といったカタイところから本学のマスコットキャラクター「ヤマミィ」までいろいろなお話を伺いました。

**大学ってどういうところ？
どういう勉強をするところ？**

田里 僕たち学生は普段、学長先生と接する機会がなくてよくわからないので、失礼な質問かもしれませんが、学長というのはどういうお仕事ですか？

丸本 学長というのは大学を代表する立場です。大学の使命というのは3つあって、ひとつは教育、それから研究。それからもうひとつはその教育や研究の成果を社会に還元し、社会貢献をしていくことです。8つの学部と9つの研究科、ひとつの研究所という大きな組織の中で教育、研究を通じて学生の人材育成をやっているんですけど、それを責任を持って統括する立場にあるのが学長です。それから、10年前に法人化して大学の運営、経営というのがもうひとつの大きな柱になりました。特に法人化してからは学内の教職員の意見だけではなくて学外の人たち、有識者と言われる人たちの意見も聞きながら大学運営をしていかなければならない。学問のことに関わる長であり、運営をする理事長というふたつの役目があり、非常に重い責任と権限を持っています。法人化前とはだいぶ変わったと思います。

自分から
主体的に
学ぼうとする
姿勢が大切

“

Profile

山口大学 学長

丸本 卓哉

Takuya Marumoto

1967年 九州大学農学部農芸化学科卒業。農学博士。
山口大学助手、助教授、教授を経て、2004年に理事・
副学長、2006年に学長に就任、現在に至る。



座談会
参加学生
STUDENTS



山口大学理学部 1年
横山 侑里 さん



山口大学農学部 1年
浅沼 萌 さん



山口大学理学部 2年
田里 翔太 さん

横山: 高校ではいろんな教科を勉強しました。大学では自分のやりたい勉強ができると思って入ったんですけど、学長先生は大学はどういう勉強をするところだとお考えですか？

丸本: 小中高は先生が教えることを学ぶ、教えてもらって覚えていくことが多い。大学は今までの成果を使って新しい分野を切り開いていく研究開発ということをやっていくところ。研究者というのは世界で誰もやっていないことをやろうとする。最先端の学問は自分で見つけて勉強しないといけない。今、山口大学では学生さんたちが課題を自分で見つけて、考えながら実践する取り組み「おもしろプロジェクト」をやっていますが、非常にいいことだと思います。解決する方法がわからない場合は自分で調べてものにしましょう。そういう意味で図書館は宝が詰まっているところですからどんどん利用してください。大学では丸暗記するよりも解決策が何に載っているかをわかっている方がいいと思います。

学びやすいように環境整備 進む大学改革

横山: 8年間の学長在任中にさまざまな改革をなさったそうですね。先輩に聞くと、共通教育のシステムが去年とはかなり違うということですが、どういった意図でカリキュラム改革がすすめられたのでしょうか。



丸本: 私が学長になる何年前に文部科学省による教育改革が行われ、大学における教養教育の実施母体である「教養部」がなくなっていました。かといって教養教育をしなくていいわけではなく、共通教育という形で引き継がれていくのですが、結果として教育の質の低下を招いてしまいました。これは、全国的な傾向だった

ようで、その後文部科学省も方向転換を行い、再度、教養教育の見直しが行われました。本学では、教養教育科目を精査し、全学部 of 学生に共通の履修科目を定め、教養教育において学生さんに身につけて欲しい内容を明確にしました。

横山: 例えば共通教育に「山口と世界」という科目がありますが、これも共通の履修科目ですね。

丸本: 外国に行くと日本について聞かれます。日本の歴史や文化を知っていないと返答が出来ません。山大学生には、山口のことを知ってもらいたい。吉田松陰以来、山口は世界に出て新しいことを取り入れてきました。山口はそういう土地だと知って、歴史や文化、いいところを学んでほしい。地元を知り、「山口学」を世界に発信してほしいと思います。

何をしたいか自分で考えて 幅広く経験することが大切

横山: 学生生活の中で何を学んでほしいと思ってるしやいますか？

丸本: 入学する時にこういう気持ちで来てほしいというアドミッションポリシー、卒業する時はこういう能力を持って出てくださいというグランドエーションポリシーまたはディプロマポリシーというのがあります。自分で何をやるのか考えて勉強を始めること。それがまず必要です。4年生になって考えたのでは間に合わない。何を学ぶか、何をやる人間になろうかということを1年の時から考えてほしい。そうするとそのためにはどういう勉強をしたらいいのかわかってくる。1、2年生の間は専門を学ぶためのベースとなるものをしっかり学んでほしい。理系の学生も美術や哲学について学ぶことは必要です。クラブ活動や遊び、友だちを作ること、アルバイトも含めいろいろな幅広い経験を積むことも大切。大学に進学できたという幸せを感じて、ご両親やまわりに感謝して、可能な限り自分の好きな勉強をしっかりとやってほしい。そしたら学ぶ楽しさがわかりますよ。ぜひそういう学生になってほしいですね。

世界へ羽ばたく翼を育てる

浅沼: 新しい学部ができるということですが、こういうものですか？

丸本: 世界に出ていけるグローバルな人材を育てたいということで新設することになりました。語学を磨くことと、文化や歴史、宗教、環境などさまざまな違いがあることを学ぶことが必要なのでそうしたことを念頭に置いて準備中です。



浅沼: なぜヤマミイのようなマスコットキャラクターを作ろうと思われたのですか？

丸本: 全国的にゆるキャラが出始めたし、2015年には創基200年も迎えるし、あってもいいのではないかなと思って作りました。今は日本中にゆるキャラがいるので名前や形が同じにならないよう調べるのが大変でした。かわいがってくださいね。

田里: オープンキャンパスで学長先生がかき氷を作られるのが話題になりましたね？

丸本: 国立大学の学長というのは硬いイメージがあるでしょう？高校生やご父兄に親しみやすさをアピールしたいと思ったのです。おかげさまで人気があって、ここ吉田キャンパス、宇部の医学部、工学部でもやっています。

構内を歩いてもらう「テクテクツアー」も始めましたし、地域に開かれた大学でありたいですね。

横山: 学長を交替されるにあたっての思いを聞かせてください。

丸本: スムーズにバトンタッチができるように昨年の秋から引き継ぎを進めてきました。学長職にあるあいだは自分の研究はなかなかできませんでしたが、これからはまた皆さんに負けないよう勉強していこうと思っています。72歳ですが、元気なうちは仕事をしますよ。

学生: 僕たちも頑張ります。ありがとうございました。

山大生という誇りを胸に

〔座談会 ② 岡次期学長×学生〕



丸 本学長の後を受けて4月から岡正朗先生が学長に就任。新学長にもYU-PRSSメンバーがインタビューを敢行しました。ご自身も山口大学卒業生である岡先生、「僕たちの頃はこうだったよ」「あのお店、まだあるの？」といった思い出話を交えながら答えてくださいました。

みんながいきいきと 過ごせるキャンパスに

浅沼: どうして山口大学の学長になろうと思ったのですか？

岡: 私は山口大学の卒業生です。生まれも山口県です。医学部に入って、教員になって、教授になって、医学部附属病院長になって、大学の改革をいろいろやって、いろいろな人と話をしてきました。今回、丸本先生が任期満了になられるわけですが、まわりの人から後任としてがんばってもらえないかとお話をいただいて、よし、どれだけできるかわからないけれどやってみよう、と思い立候補しました。

浅沼: 岡先生にとって山口大学とはどんなものですか？

岡: 宇部に行くまで2年間は山口市で過ごしました。下宿も吉田キャンパスの近くです。学生運動が盛んな頃で、講義はあまりうけられなかったけれど、クラブ活動もしていたし、「ここで育ったんだ」という気持ちを持ち続けています。とても大切な大学ですし、私自身のルーツの

ひとつであると思っています。

ずっと大学にいますので、日本の中で山口大学がどういう位置づけにあるのかということはある程度は知っています。近隣の大学と比べていいところも悪いところもあるのですが、もっといい大学になってほしい、学生も教職員もいきいきとすごしている大学にしたい、という思いがあります。

田里: 創基200年に対する思いを聞かせてください。

岡: すばらしいことです。東京大学、東北大学に次いで3番目なんですね。伝統というのはお金で買えるものではありません。全然関係ないと思っていても、考え方や行動に影響しているのは確かだと思います。山口大学について考え直すいい機会で、200年という節目に巡り会ったのもラッキーだと思っています。学生さんにも山口大学で学んだことを誇りに思ってもらいたい。この創基200年を契機に、学生さんの就学や留学を支援するための基金をつくることにしました。1円でも多く集めて支援したいと考えています。

専門に上がる前に 基礎固めをしっかりと

浅沼: 共通教育についてお聞きします。先輩たちは自分で好きな科目を選んで組めたのですが、私たちの年からシステムが変わって、選択必修と必修以外は卒業単位に含まれなくなりました。高校と同じように、みんなが決まったものを受けることになっています。

岡: いろいろと選択できる方がいいと思っているん

前ページに引き続き、
私たちがお話を伺いました！





Profile

山口大学 大学院医学系研究科教授

岡 正朗 Masaaki Oka

1981年山口大学大学院医学研究科修了。医学博士。
専門は消化器外科。山口大学医学部教授、同大学
附属病院長などを歴任。2014年4月学長に就任。

ですね。共通教育とは、専門に進む上でこれだけは
学んでおいてほしいというものです。昔は高校で、
例えば理科なら物理・化学・生物・地学、社会なら
地理・日本史・世界史・政治経済と全部を習って
いましたが、今はそうではないので、補習が必要と
なり、選択性が少ないのです。

また、山口大学のビジョンの中で「発見し・はぐ
くみ・かたちにする」というのがコアバリューとして
ありますが、4年の間に、自分で考え行動して結果
を出してほしい。「知の広場」のキャリア教育や、
地元について学ぶ「山口学」は、そのために設け
られました。専門にあがるためのプラスαというこ
とで、キツキツになったかな、という気はしています。

僕は、語学は英語だけでなくアジアの言語も
選択できればいいと思っているのですが、その
あたりは、学生さんの意見も聞きながらこれから検証
して、もっと充実させていきたいと思っています。

「山大ならではの」 ブランド力をつけていくために

横山: 新学部についてお聞かせください。

岡: 今世の中が求めているのは、理系と文系の
ハイブリッドな人だと思っています。目指すべき
は文理融合、そしてグローバル化です。そういった
ことで新しい学部を作ることになりました。大学
は社会と共に変わっていきながらどういうブラン
ドを生み出すが問われる。山大ならではの
人材、研究を輩出できるかということを評価
されます。もちろん、ただ変わればいいと
いうものではない。継続性も大事です。
そして新しい学部をつくるだけでは
なくて他学部も改革が必要で、そう
いう議論は進んでいます。短期間で
成熟させ、一方で実行もしていく、僕
の任期はとても忙しい4年間になる
と思います。

横山: グローバル人材育成に
ついてはいかがですか？

岡: 大学全体で取り組みたいと
思っています。具体的にいうと、
留学するチャンスが増え、海外から
の留学生が増えるということ。
グローバル化というときに絶対

に忘れてはいけないのが自分の国を知ることの
大切さです。僕も留学したけど、あなたの街はどん
なところかと必ず聞かれますから。それから語学
のグレードアップも必須。できるだけたくさんエク
スチェンジができればいいと思います。

浅沼: みんなに学生のあいだに留学してほしい
と思われますか？

岡: 無理に行く必要はないけど行ければ行った
らいいと思う。物見遊山では大学として支援で
きないので、目的を持って行って、しっかり成果
を報告してほしいですね。

「知の広場で共に」 切磋琢磨し、よく学んでほしい

田里: 学生生活を通じて何を学んでほしいと
お考えですか？

岡: できるだけ知り合い、友だちをたくさん作っ
てほしい。人間はひとりでは生きていけません
から。「知の広場で共に」ということばを心
にとめて、友だちをたくさん作ってください。そして
勉強してください。

では最後に僕からも質問しよう。山口大学に
来てよかったですか？

どんなところがよかった？

横山: のんびりしているところが好き
です。



浅沼: 山口大学のキャンパスは全国的にも上位
の広さだと聞いていますが、農場が本当に広い。

田里: 友だちや先輩後輩、先生方、いい人たち
に巡り会えたことが宝物になりました。

岡: それはよかった。僕は死ぬほど勉強しない
といけない大学にしようかと思うんですが、どう
ですか？死ぬほどというのは冗談にしても、僕は
もっと勉強すればよかったと思っています。
しっかり勉強してください。

学生: はい、今日はありがとうございました。

語学力を磨き、
地元の歴史や
文化も学ぼう



山口大学ブランドの創造始まる

高校までの教育から大学の高度な専門課程を繋ぎ、問題に適切に対処できる人材になるために全学生が履修する共通教育について、その改革や意味を明らかにします。



Profile

大学教育センター長 山口大学教育学部 教授

糸長 雅弘 Masahiro Itonaga

理学博士。教育学部理科教育講座に所属。これまで、磁気圏物理学の研究を行う。現在は数学・理科教育におけるコンピュータの活用並びに情報セキュリティ及び情報モラルに関する研究にも力を注いでいる。

山 口大学に入学すると全学生が初年次に履修することになる共通教育。平成25年度に、一部の学部を除き選択制から全学共通制になるなど、その仕組みは大幅に改革されました。共通教育を学ぶ意味を交えながら、リニューアルの理由を大学教育センター長である糸長雅弘教授が教えてくださいました。

共通教育のシステムとは

「共通」という言葉から推測できると思いますが、学生の所属する学部・学科に関わりなく行われる大学の教育のことをいいます。山口大学の場合、平成25年度から共同獣医学部を除き、それ以外の学部は共通教育の授業科目が全て必修化されました。これにより、学部によって異なる授業をとるということはありません。日本の大学の卒業単位は124ぐらいですが、山口大学では共通教育のうち全学で必修化した部分は30単位です。キャリア教育の1単位分をのぞき、全て初年次に行います。例えば教育学部でとれる単位には、半期で26単位、年間で52単位

の上限があります。この場合、初年次の52単位のうち29単位が共通教育なので、残り23単位分が専門教育としてとれることになります。

共通教育を受けることで「解はひとつではない」ということを知る

数学や物理などの理科系科目が典型ですが、高校教育までは、「たどり着く道筋はいくつかあっても答えは1つ」という問題や課題に向き合ってきました。ところが一般社会で起きることは、むしろ答えが1つである方が例外的であって、「解は1つではない」という問題に向き合わなければなりません。大学の専門教育の授業では、解は1つではなく、さらにその解が我々にとって必要であるのかさえもはっきりしないものを学んでいくことになります。そこが高校までの教育との大きな違いです。

私たちとしては、平成25年度から導入した共通教育で、高校と大学の接続をうまくめらかに繋ぐようなかたちにしたいと考えています。そこで初年次に、世の中には解が一つではない問題がたくさんあり、その問題に

対してどのように向き合えば良いのかを学んでもらいます。解が一つではない問題に向き合うには、特定の分野に偏らずに幅広い分野(人文科学、社会科学、自然科学、それに学際的な分野)を学んで、考え方やものの見方を幅広く身につける必要があります。

山口大学ブランドの資質を保証する基盤を創る

山口大学は共通教育によって、学部学科に依らない共通の基盤としての資質を卒業時に保証します。その上に学部学科の専門的な資質・能力が育成されて卒業していく教育システムを山口大学ではつくろうとしています。従来の共通教育では、大まかに人文科学、社会科学、自然科学、応用科学と分かれていて、それぞれの枠で合計何単位以上を選択するように決められていました。そのやり方でも極端に偏った共通教育の授業科目のとり方はありませんでした。しかしそれでも、同じ学部学科生なのに、哲学をとっているが、自然科学の物理や化学をとっていないというような、基盤になる部分がバラバラになっていることが気になりました。専門教育であれば、どの学生もその学部学科に入れば同じものを受けますが、共通教育による土台となる部分が学生によって違えば、なかなか山口大学のブランドはこれだというのが創れません。そこで、山口大学を卒業したら、最低限の資質・能力としてこれだけを保証しますよと社会に言えるよう、共通の基盤をつくることにしました。

「バイキング料理がヘルシーな定食メニューに」変わる理由

共通教育の新旧の違いを、わかりやすいよう食事に例えましょう。従来の共通教育は、ホテルの食事のようなバイキング方式で、取りたいものをもって自由に好きなものを食べられました。当然、嫌いなものは手を付けなくても良いので、これではバランスが悪く、栄養に偏りが出ました。

それに対し、新しい共通教育は定食メニューと言えます。ヘルシーでバランス良く30品目(単位)を摂ることが出来ます。従来の半分の期間でメニュー内容(科目)がいろいろと変わるので、飽きることなく残さず完食できます。食べ続けると気づかないうちに、体質が変わり、元気になります。

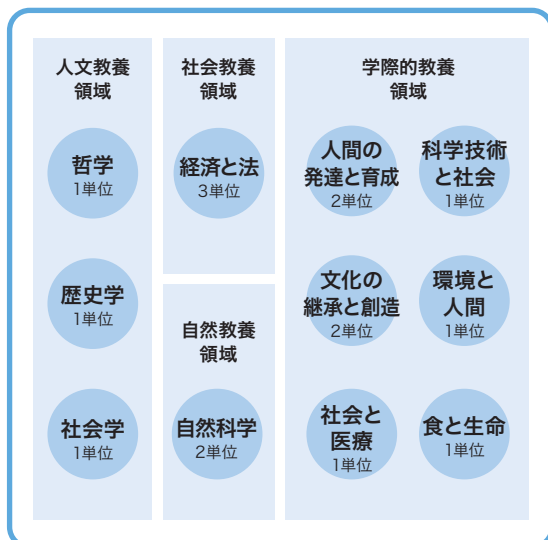
システムの変更には大変な議論がありました。学生には自由に選ばせることが必要ではないか、また、従来の半分の期間では十分な深い内容が教えられないなどの意見がありました。確かにそれは一理あると思います。一方で初年次からそんなに深い内容を教えようとすると、本当に興味のある学生には充実感がありますが、単位が出やすいからと先輩から勧められて受けている学生は真面目に受けていても、本当は何を学んでいたか分からないということになってしまいます。

最近、中教審(※)などでさかんに言われ、世界的な流れになっているのは、「何を教える

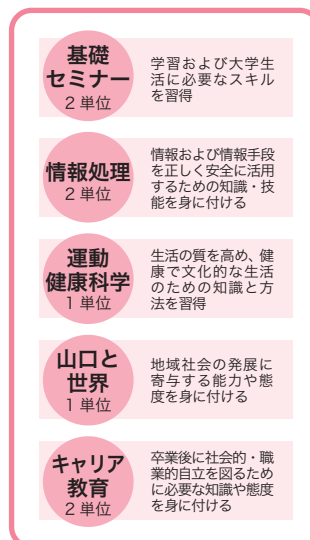


か」よりも「何ができるようになったか」の方が大切なのだという考え方です。全15回に慣れていた先生でも、何を教えるかではなく何が出来ようになるかを授業の目標に定めて、それを達成するための内容を考えれば、全8回に合わせられると考えています。例えば人文学部には、哲学と歴史学と社会学を全ての学生に提供してもらいますが、哲学的なものの見方や考え方、歴史的な見方、社会学的な考え方を養う授業をつくってもらいたいと思っています。今までの学生は、山口大学で哲学を勉強せず、物理学を全く知らないまま卒業していく者もたくさんいました。確かに知識・理解の点からすると、講義で行うのはそれほど深い内容ではありません。しかし哲学的な、物理学的なものの見方を全員が一度は学んで、将来社会に出たときにそういうものの見方があったと思い出し、興味をもって学び直すことも出来るようになって欲しいと思います。そのきっかけが共通教育を通して学生の中に出来上がってくれば、共通教育のリニューアルは成功したことになります。

■一般教養科目



■教養コア科目



ブランドの創造は「発見し・はぐくみ・かたちにする」ことから

学生に伝えたいのは、山口大学の基本理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする」ことを学生時代にたくさん経験してほしいということです。社会に出てからも、一番求められることだと思います。自分たちで問題を発見して、自分たちで育んで、自分たちの解決策をかたちにする。これは大学時代に限らず、これからの人生でずっと求められることです。どうか皆さんのことを山口大学で発見し、はぐくみ、かたちにしてください。

(※)中教審:文部科学省の中央教育審議会

キャリア教育から 始まる人生設計

山 口大学学生支援センターにて、
変化の激しい社会に対応しながら
成果を出せる人材育成を目標に、
キャリア教育・就職支援に取り組んでお
られる平尾元彦教授に、キャリア教育
の重要性を語っていただきました。

キャリア教育とは何か 人生の設計(デザイン)の事

キャリア教育とは、社会で“働く”マインドを
育てる教育。職業訓練ではありません。山口
大学では英語やそれぞれの分野の専門と同じ
ように、“キャリア”も学びの一つだと考えてい
ます。学生の能力や価値観は一人ひとり異なり
ます。だから学ぶべきことを自ら学ばなければ
なりません。もちろんキャリア教育の授業はあり
ますし、授業外の学習機会もたくさんあります。
正課内外の学習の場を活用しながら、社会で
活躍する力をつけてほしいと思っています。

日本は新卒一括採用の文化がある国です。
大学を卒業したら、翌月からは会社や役所で
働くことが普通です。だから大学時代に就職
活動をして次の進路を決めるべきだし、これ
からの人生をどう生きていくか、やはり大学
時代に考えておかなくてはなりません。

職業研究ではない「生き方教育」 社会人力のある学生の育成

キャリア教育科目は、1年次の「知の広場」、
主に3年次の「キャリア教育」の2科目が
開講されます。

1年生は、大学で学ぶ意義を理解し、大学
生活を充実させるための考え方と方法論を
学びます。大学とはいったい何だろう？グロー
バル化の時代に身につけなければならない
素養とは？自分のキャリアをどのように考え
たらいいのか？など基本的なところを学ぶ
入門科目です。

3年生では、卒業後の道を意識しつつ世の
中の仕組みを学びます。インターンシップや
学内業界・企業研究会など、授業外の学習
機会と連動しながら多様な学びを実現しつつ、
就職活動の準備ができるようにしています。



↑ 知の広場の授業の様子

キャリア教育は、将来をデザインする「生き
方教育」。単に就職活動の準備というものでは
なく、生きる力を育む教育です。社会的・職業
的自立にむけた力の育成を目標としています。
例えば、企業が大学生に求める能力のひとつに、
コミュニケーション能力があります。そもそも
どんな能力なのか、なぜ企業が重視するのか
など、本質的な理解を深めると同時に、継続的
に高めるための意欲と能力を養う授業を展開
しています。

Profile

山口大学 学生支援センター 教授

平尾 元彦 Motohiro Hirao

筑波大学第三学群社会工学類卒業、広島大学大学院社会科学研
究科修士・博士(マネジメント)。財団法人計量計画研究所、財団法
人九州経済調査協会などを経て、2003年より山口大学学生支援
センターにてキャリア教育・就職支援に取り組む現在に至る。



キャリア教育必修化の理由

平成25年度から始まった新しい共通教育のなかで、キャリア教育を全学必修にしました。すべての学生にとって、「キャリアを学ぶこと」は必要だと考えるからです。

社会のニーズが変わってきました。変化の激しい時代、グローバル化の時代などと言われています。自ら育つ、しかも、早く育つことを会社は求めるようになってきました。新入社員の期待レベルは確実に上がっていると思います。社会が変わるなかで大学も変わらなければなりません。学問を探究するなかで、社会で活躍する基礎力向上を意識した教育が求められています。その入り口としてのキャリア教育必修化なのです。

学生気質も変わってきているように感じます。今の大学生の多くは90年代に生まれ、日本経済の低迷期に育ってきました。就職できるのだろうか、会社でついていけるのだろうか、不安が強い世代です。だからこそ、正しい知識と柔軟な考え方は重要なのです。すべての学生が修得できるように全学必修としました。ただし、授業を受ければそれでよいわけではありません。自分の人生設計を描き、主体的に卒業後の道を選択することができるように、授業外の様々な学習機会との連動を図っています。

大学生である時期は人生のほんの一部。卒業した後も人生はずっと続きます。社会で活躍し貢献する自分になるために、大学生のうちに次のステップへの準備をする。これがキャリア教育から始める人生設計です。今、山口大学は「キャリア教育の基本方針(※)」を定め、キャリア教育の充実に取り組んでいます。

地方にいることはハンデではない 焦らずに学ぼう

都会の企業への就職を目指す地方の学生は、企業にアクセスしにくく不安に思われているかもしれません。セミナーや説明会にせっせと通っている都市部の学生を見て、慌てることもあるでしょう。企業はそのような人材が欲しいかというと、必ずしもそうではありません。焦って空回りするよりも、大学生活を充実させることに注力した方が、結果的によい就職活動になるでしょう。山口大学には、東京や大阪からもたくさん企業が来てくれます。わざわざ出向かなくてもキャンパスで会えるチャンスをおおいに活用してください。



↑ 学内業界・企業研究会の様子

聞くことで知り、 本を読むことで考える

授業を聞いて、「ああ、そうか」と流して
いては駄目なのです。だから宿題をたくさん

出します。そのひとつが「キャリアインタビュー」。身近な人生の先輩に話を聞くというものです。親でも先生でもバイト先の店長でも構いません。仕事でつらかったこと、やりがいを感じたことなど、いろいろな話が出てきます。それと同時に、素敵なアドバイスをいただくこともできます。学生には面白く貴重な経験となっているようです。

「キャリアモデル」の課題は、働くことを本から学ぶもの。松下幸之助や本田宗一郎のような偉大な経営者にもはや会うことはできませんが、本だったら出会えます。興味ある分野を先に歩む人たちの生き方・働き方を学び、自分の人生を考えてほしいと思っています。

学生へのメッセージ

本を読んでください。書物から学ぶことができるのは、大学生の強みです。専門分野の本はもちろんのこと、人の生き方・働き方を学んでほしいと思っています。就職支援室(共通教育棟1階)と総合図書館・工学部図書館には、キャリアをテーマとして書籍コーナーがあって、古典から最近のTVドラマ原作まで揃っています。貸出もできます。知識や経験を
どんどん増やして自分の人生設計を進めて
いってください。



↑ 図書館にある、キャリア学習
就職活動支援コーナー

山口大学 キャリア教育の基本方針(※)

山口大学は、教養教育・専門教育、そして、正課外の様々な活動を通じて、山口大学憲章に掲げた、自らの未来を切り開くことのできる人材を育成していくため、ここにキャリア教育の基本方針を定め、全学的にキャリア教育を推進していきます。

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1 大学におけるすべての教育研究活動を通じて、学生のキャリア形成を支援する</p> | <p>2 就業する力・進路を選択する力をつけるためのキャリア学習の場を提供する</p> | <p>3 学生のキャリアビジョンを明確にさせ、社会的・職業的自立にむけて指導する</p> |
|---|--|---|



President's
last
lecture

丸本学長最終講義

➡ 平成26年2月28日(金)、大学会館ホールにおいて、本年度いっばいで退任される予定の丸本卓哉学長の最終講義が行われ、このために遠くベトナムから帰国した卒業生を含め、約170名もの方が丸本学長の最後の講義を聴講しました。

丸本学長は、40年以上にわたる研究生の中で、専門の土壌微生物に関し様々な研究を手がけてこられました。なかでも主要な研究として「土壌微生物の養分供給に関する研究」と「環境修復・緑化技術の開発に関する研究」の二つを最終講義の演題に選ばれ、どのように研究をすすめてこられたのか、図表を示しつつ、具体的に分かりやすく説明されました。



➡ 講義を終えた丸本学長には、農学部4年の樋口歩美さんから花束が贈呈されました。樋口さんは、学長の授業を受けたことがなく、このたび初めて学長の講義を聴いたとのことですが、丸本学長が開発に携わってこられた共生微生物を組み込んだ被覆シート(商品名:多機能フィルター)について、「緑化技術を開発するだけでなく、世界中のいろいろなところでその効果が実証されているのがすばらしい。同じ土壌微生物を専門とする者として自分も地球環境の改善に携わっていきたい」との思いを話してくれました。

地域 貢献への 取り組み

地域に開かれた大学としての取り組み

5

カンボジアで科学の祭典を開催

ー科学の面白さを伝えるために教育学部教員と学生がカンボジアの小学校を訪問ー

山口大学では、大学の有する人的・物的資源を活用して、地域社会との連携を推進し、地域活性化、ボランティア等、さまざまな活動に取り組んでいます。



平成26年2月16日～23日にかけて、教育学部教員及び学生8名がカンボジアの小学校を訪問、「科学の祭典」を開催しました。教育学部では、平成20年から、有志の教員が結成した「教育国際支援プロジェクトチーム」を中心に、開発途上国の教員養成・学校教育の支援活動を続けてきましたが、今回のイベントは、学生が主体となり、カンボジアの子ども達に理科実験を通して科学の面白さを伝えるために企画されたものです。

帰国した学生代表の教育学部4年 平田 啓さんは、次のように感想を述べています。「理科の授業においては、言葉がけは最小限にし、実験を通して子ども達自身に考えさせることが大切だと言われています。カンボジアではそもそも言葉が通じませんが、子ども達の表情や仕草から、理解してくれたのだなと感じる瞬間がありました。日本での教育実習等では、伝えたい思いが先行し言葉に頼った指導になりがちでしたが、こんなにも少ない言葉でも伝えることができるのだということ、改めて感じました。」

山口大学教育学部の支援活動の詳細はここでCHECK! >> <http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>

2013年を漢字一文字で振り返る

学生たちにとって、2013年は漢字一文字で表すと、どんな1年だったでしょうか？

山口大学広報学生スタッフ(YU-PRSS)が、吉田キャンパスでアンケートを実施しました。



大学に入学し、新生活が始まり、サークルやバイトなどの様々なことを始めたから。

(1年女子)

今回の表紙 & 特集に登場！



大学生になって新生活が始まり、新しいことだらけの毎日だったから。

(1年男子)

今回の表紙 & 特集に登場！



沢山の県を旅行したから。

(3年男子)



内容の濃い

1年だったから。

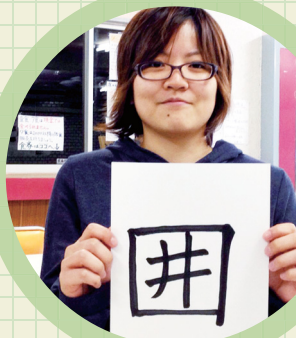
(1年女子)



皆さんの助けがあって一年間やっていけたという感じでこの字にしました。

(1年男子)

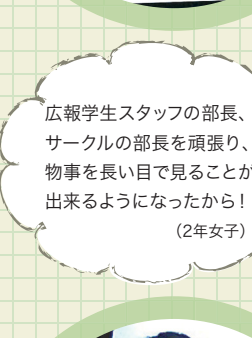
今回の表紙に登場！



今までの人生で一番人に囲まれた1年だったと思うから。

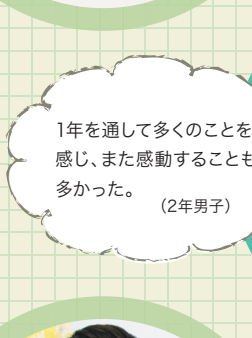
(1年女子)

今回の特集に登場！



広報学生スタッフの部長、サークルの部長を頑張りと、物事を長い目で見るできるようになったから！！

(2年女子)



1年を通して多くのことを感じ、また感動することも多かった。

(2年男子)

今回の表紙に登場！



さまざまな困難があったけど、みんなで力をあわせてきた2013年！

(2年女子)



成し遂げる、成人、成功など、成の多い1年だったから。

(1年男子)

YU-PRSSとは？

ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、
山大的WEBサイト内の「キャンパス
ライフ」ページなどの制作に携わる、
山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS(“Yamaguchi University Public
Relations Student Staff”の略)は、「山大的のあなた
(YOU)にも、そうでないあなた(YOU)にもプラスになる
情報を届けたい」との想いを
込めてつけられました。

現在20名のメンバーで
広報活動を行っています。

今月号は
メンバー数名が
表紙や特集ページで
大活躍！



YU-PRSSメンバー

入江 貴博	中富 真奈	小形 智樹
長岡 奈緒子	城村 ひとみ	中山 拳太郎
前田 梨乃	長岡 真大	原田 海沙
吉岡 優一	倉増 沙和	浅沼 萌
河島 あかね	田里 翔太	横山 侑里
溝口 明音	原殿 花織	近藤 守
石井 沙希	武田 一志	

感想、取材依頼など、YU-PRSSに
お気軽にメールしてください！

今月号についての感想や、今後こういった特集はどう
だろうといったアイデア、こんな人取材してほしい
といったご要望も受け付けています。また、「私たちが
取材してほしい」といったサークルやグループも大歓迎
です。たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL: campus@yamaguchi-u.ac.jp

「キャンパスライフ」はコチラをCHECK! >>

<http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/>

~campus/campus_life%20_web/

01 「トビタテ！留学JAPAN」 キャンペーンミュージックビデオに参加



文部科学省は、留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」施策の一環として、AKB48の
「恋するフォーチュンクッキー」の替え歌となる留学応援ソング「トビタテ！フォーチュン
クッキー」のミュージックビデオを制作しました。ミュージックビデオは、グローバル人材育成
推進事業およびグローバル30に採択された47大学の学生、AKB48、文部科学省関係者によ
るダンス映像等を一曲に編集されたものです。グローバル人材育成推進事業採択大学で
ある山口大学も制作に協力、留学生を含めた17名の学生とヤマミィが参加しました。
ダンス映像は2月14日からインターネット上で公開され、下記の文部科学省のサイトから閲覧
することができます。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/02/1344307.htm

02 『山口大学の来た道』 第4巻発刊しました

平成26年2月に『山口大学の来た道』の第4巻が発刊されました。
戦後の混迷期の中、学校関係者だけでなく、県や市を挙げて
の大学設置運動により、昭和24年、山口大学は誕生しました。
本誌では、総合大学の設置までの道のりと、創世期の各部局
の様子について詳しく書かれています。

創基200周年記念サイトでPDF版を公開中です。



03 前期日程一般入学試験 合格発表

3月7日(金)は、一般入試前期日程の合格発表日で、
大学本部のある吉田キャンパスで、合格者1,396名の
受験番号が掲示されました。掲示版の前には多くの受
験生が集まり、あちらこちらから番号を見つけた受験
生の歓声が上がっていました。



YU-INFORMATION

ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 Vol.118

山口大学総務部広報課

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL: 083-933-5007 FAX: 083-933-5013
E-MAIL: sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL: <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

今月の NEWS & TOPICS

04 CEDC2013において機械、電気電子、 知能情報系の学生グループが受賞

2013年12月4日～5日に大連理工大学(中国・大連市)で開催された国際会議 International Conference on Innovative Application Research and Education (ICIDEM2013) で行われた創造工学設計競技会 Creative Engineering Design Competition (CEDC2013) において、大学院講義の高度ものづくり創成実習Ⅰ(組込み)で製作したロボットが受賞しました。

受賞した学生は下記の4チームです。

Gold Prize Winner: 山崎翔(電電)、徳田慎太郎(知能)、本田圭吾(機械)

Silver Prize Winner: 下司拓也(知能)、平野真弘(機械)、丸川皓平(機械)

Best Economy: 木下佳典(機械)、村田宏嘉(機械)、市川達也(電電)、椿和大(知能)

Best Aesthetic: 金山拓也(電電)、岸達也(知能)、清水優志(機械)



05 The International Conference on Electrical Machines and Systems 2013 において Outstanding Paper Award を受賞

韓国電気学会主催、中国電気学会および電気学会(日本)共催で10月26-29日に韓国釜山市で開催された The International Conference on Electrical Machines and Systems 2013 において、理工学研究科博士後期課程2年の Tin Soe Win さんが発表した Constant DC Capacitor Voltage Control based Strategy for Active Load Balancer in Three-phase Four-wire Distribution System が Outstanding Paper Award を受賞しました。



EVENTSCHEDULE 「イベントスケジュール」

4

APRIL

03

木

山口大学大学院及び
山口大学入学式

場所: スポーツ文化センター

05

土

新入生歓迎
フェスティバル

場所: 吉田キャンパス

09

水

前期授業開始

6

JUNE

01

日

創立記念日

今年で65回目を迎えます。

24

火

名誉教授称号授与式・
名誉教授懇談会

日時: 平成26年6月24日(火)

場所: 吉田キャンパス

7

JULY

12

土

第42回 セタ祭

日時: 平成26年7月12日(土)

場所: 吉田キャンパス

「志」 つなぎ 伝える
二百年



2
0
1
5
年
に
山
口
大
学
は
創
基
2
0
0
周
年
を
迎
え
ま
す

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽により創設された「山口講堂」をルーツとし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。来る2015年(平成27年)には創基200周年を迎えます。山口大学は、地域に根ざした大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。

2014年度

創基200周年NEWS

山口大学では、200年の歴史を多くの皆様に伝えるための講演会、シンポジウム、また、地域のニーズに合わせた様々な行事、学生の企画によるイベント等の各種記念事業などを実施します。ここでは、それら創基200周年に関連した最新ニュースを紹介していきます。



明治20年当時の全景

～いよいよあと一年！山口大学の創基200周年～

山口大学の歴史を振り返ると、江戸末期にあたる1815年、長州藩士・上田鳳陽により創設された「山口講堂」にその礎を認めます。以来、様々な学制改革を経ながらも、山口の地で高等教育の中心として脈々と歴史を刻み、地域の人材育成に貢献し、世界で活躍する多くの人材を送り出してきました。

2015年には、「山口講堂」が創設され山口大学の礎が築かれてから200年が経ちます。山口大学では、先人達の「志」を現在まで繋いできたことを祝い、そして、これからの100年で山口大学が更に発展することを祈って、さまざまな記念事業を行っていきます。

創基200周年を1年後に控え、2014年度は、10月4日に第2回ホームカミングデーおよび創基200周年記念第4回基幹シンポジウムの開催が予定されています。

Back to the Past バック・トゥ・ザ・パスト

山口大学の過去と現在の姿を比較しながら、200年の歴史を振り返ります。



第6回

【昭和33年】 経済学部の旧亀山キャンパス

昭和33年経済学部の旧亀山キャンパスの風景。現在は、パークロードに面して県立美術館が建っています。消失前のサビエル記念聖堂はこの6年前に完成していますが、写真の左奥にあり、写っていません。後背に見える山は鴻ノ峰、建物のすぐ後ろには亀山があります。この年、山口大学管弦楽団が発足。第一回演奏会が、屋根に尖塔のある経済学部講堂で行われました。

創基200周年の詳細はここでCHECK! >> <http://www.yamaguchi200.jp/>